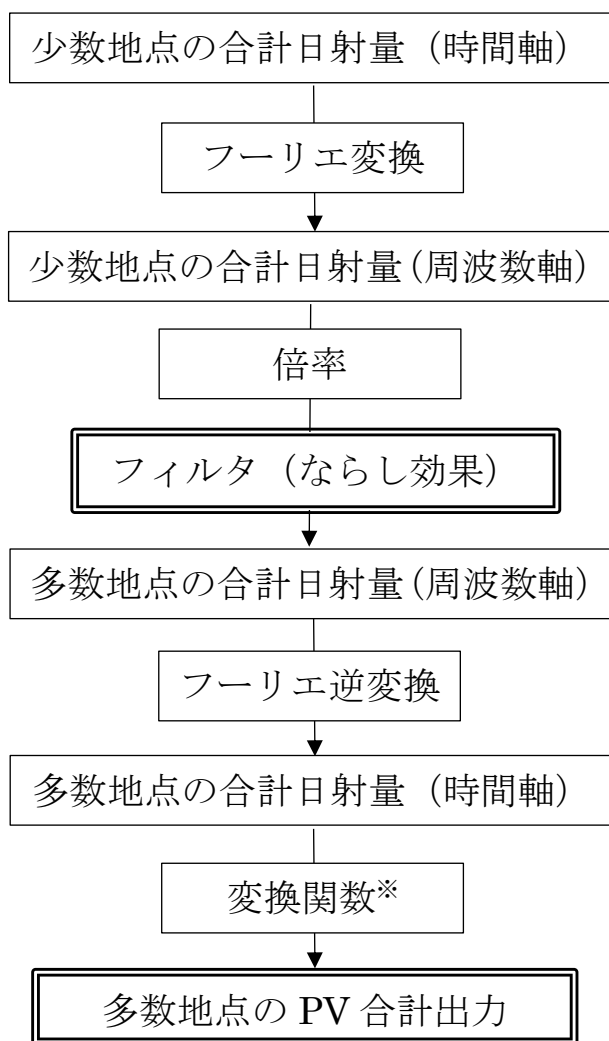


ならし効果を考慮した 太陽光発電リアルタイム出力把握手法

「ならし効果」を定量的に表現できる「遷移仮説」より導かれるフィルタを利用することにより、時間軸上でならし効果を考慮した太陽光発電リアルタイム出力把握手法を開発しました。

- ・フーリエ変換とフーリエ逆変換の間に倍率とフィルタをはさむと、ならし効果を考慮した多数地点の合計日射量が得られます。(図1)
- ・現在時刻以降に仮データを付与することで、現在時刻における多数地点の合計日射量を把握できます。(図2, 図3)



※変換関数：日射量より PV 出力を推定する関数

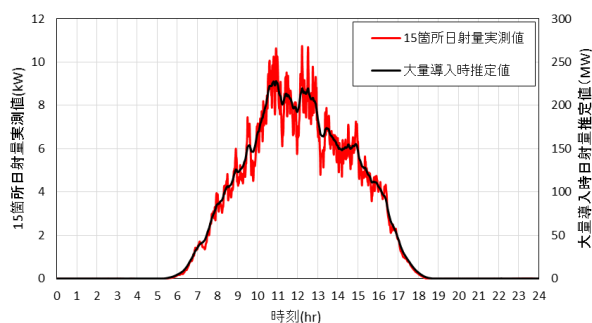


図1 PV大量導入時の時系列データ推定結果

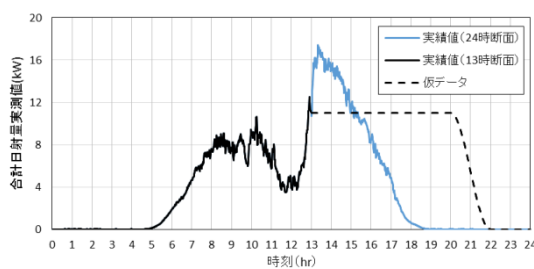


図2 日射量実測値 (19箇所)

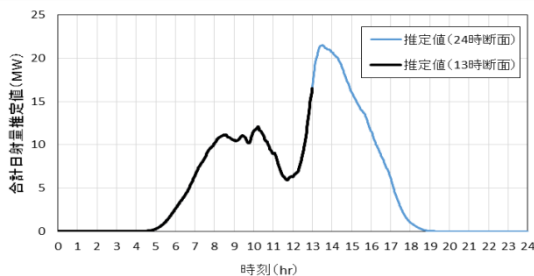


図3 日射量推定値 (26,000箇所)
H26年5月時点北陸エリア全PV設置数